

令和 7 年 10 月 10 日

東員町議会 教育民生常任委員会

委員長 片松 雅弘 様

教育民生常任委員 広田 久男

視察研修報告書

研修期間	<u>令和 7 年 10 月 7 日 (火)</u> <u>～ 10 月 8 日 (水) 【 2 日間 】</u>
研修（視察）先	10 月 7 日…岡山県美咲町 10 月 8 日…兵庫県加古川市
目的（テーマ等）	10 月 7 日…地域づくり（賢く収縮／小規模多機能自治） 10 月 8 日…ゴミ減量化への取り組み
参加議員名 (複数の場合)	教育民生常任委員会委員
資料添付の有無	有 • 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

(字体は「BIZ UDP ゴシック」に変更しています。ユニバーサルデザインフォントと呼ぶ、誰にでも読みやすい字体)

★視察研修日 10月7日 研修目的；地域づくりについて(岡山県美咲町)

1. 岡山県美咲町の概要

- 1) 美咲町(みさきちょう)は、岡山県の中央部に位置する町。
卵かけご飯発祥の地として、町おこしをはかっている。
- 2) 人口は 11614 人(2025年9月1日現在)、1970 年(昭和 45 年)頃の人口は現在の 2 倍(2300 0人)が暮らしていたが、その後は少子高齢化をずっと続けている。
出生数も減り続けており、現在 39 人／年まで減っている。
- 3) 65 歳以上の高齢者が多く住む町。面積は 232.17km²(東員町の 10 倍)あるが、大半は山林が占め、豊かな自然を有する。町内を 2 つの一級河川(旭川・吉井川)が貫く。
また、町の中心を JR 津山線、国道 53 号が通り、県庁所在地の岡山市や岡山県北部の中心都市である津山市との間を結んでいる。

2. 美咲町行政から受けた好印象

美咲町役場には早めに到着した。すると、視察対応の「地域みらい課」宗近由利(むねちかゆり)さんが 5 月に同時竣工した役場に隣接する複合施設(物産センター、生涯学習センター)を案内してくれた。

また、役場玄関前では青野高陽(あおのたかはる)町長が出迎えてくれました。
役場内に入ると職員全員が笑顔でいさつ、行政視察に行ってこんなに気分がよく、嬉しいなと感じた体験は初めて。
なんかこの町は人のつながりを大事にした良い町だなど、直感的に感じました。

3. 所感／成果(★で示す)

美咲町「地域みらい課」から学んだこと、見習うべき点を以下に報告します。

① 「現実を見据えて 賢く収縮する」

少子高齢化も人口減少も一発逆転で止められる、魔法のような施策は存在しない。
だったら、この町に住んでいる人たちが幸せに暮らせることを考えようと、現在、いろいろな施策を立案し実行している。(老朽施設の撤去・統廃合、子育て支援、小規模多機能自治など)
新聞・テレビほかたくさんのマスコミでも取り上げ紹介しており、全国的に注目されている。

② 地域が「元気・明るい」のは 人交密度が高いから～小規模多機能自治に向けて

美咲町の町内会は 81 自治会があり、村役・草刈り・各種地域行事に対応し切れなくなっている。高齢化して支えてくれる担い手が居ないから。人同士のつながりも希薄化しているから。
そこを、どうにかして変えてゆこうと「小規模多機能自治」に取り組んでいる。

81 自治会を 13 の地域運営組織(13 協議会)にしようと取り組んでいる。

★昔気質な考え方を持った人たちを、そう簡単には変えられる訳がないのに、町長自ら住民の前に出向いて、話し合いをしている。

何度も文句を言われて、追い返されても、説得し続けている。

すごい町長！ 見習うことばかりだ。

③ 「小規模多機能自治」に取り組む担当職員の勇姿

一筋縄ではいかないことに真正面から取り組んでいる「地域みらい課」課長光嶋寛昌(こうしまひろまさ)・参事宗近由利さんの奮闘ぶりが脳裏に浮かんだ。

(住民が集まる場には何時だろうが出掛けて顔を出している。職員の鏡である)

現状 13 協議会の内、1/2 くらいは住民自治が進展しているようである。

各協議会では中学生以上に住民アンケート取りをして、自分の暮らす地域にはどんな課題があるのか・どんな地域にしたいのか、住民たちが自ら考え・自分たちで活動を始めている。

しかし、3 協議会は全く進んでないとのことである。(この課題克服=意識改革は超難題！)

★ぜひとも本町「地域づくり応援課」は当該課の話を聞いて、取り組み方を参考にしてほしいと思います。

④ 「意識改革」の超難題には女性参加を推進する！

★「俺が俺が の意識が強い昔気質な男性陣よりも、女性参加を推進する」と意識改革が促進することは容易に理解がつく。本町の地域づくりにも参考にするべし！

※補足

青野町長 自らが、終始陣頭説明され、町長の新しい地域づくり・くらしやすい町づくりの情熱が強烈に伝わってきた有意義な視察研修でした。

2018年(平成30年)より現町長が就任してから、美咲町、美咲町民と職員は大きく変化しているのだろうと想像しました。

～以下、次ページからは兵庫県加古川市 視察研修報告を記す～

★視察研修日 10月8日 研修目的;ごみ減量化に向けた取り組み

1.兵庫県加古川市の概要

- 1) 加古川市は兵庫県の南部、播磨灘(瀬戸内海)に面した市である。
公共交通機関としては、JR 西日本の山陽本線(JR 神戸線)と加古川線、そして山陽電鉄の本線が通る。
交通の便の良さから神戸市・姫路市のベッドタウンとして機能している。姫路市までは電車で約 10 分、神戸市(JR 三ノ宮駅)までは電車で約 30 分、大阪市までは電車で約 50 分
- 2)集合住宅が林立した JR 加古川駅周辺、JR 東加古川駅周辺、山陽電鉄別府駅周辺などの市街地、重化学工業地帯や大型量販店の激戦区となっている南部と、農村風景が残るのどかな雰囲気の北部とで全く違う景観があり、二面性が見られる。
- 3)加古川市の面積は 138km²(東員町面積の 6 倍)、人口は 25 万 3600 人(2025 年 9 月 1 日現在)(東員町人口の 10 倍)、人口推移は 2015 年(平成 17 年)までは増加する一途で推移(26 万 7000 人)していたが、現在は減少傾向で推移している。

2.加古川市議会の概要

議員定数は 31 人(現在 31 人)、議員平均年齢は 56.5 歳、70 歳代の議員は 2 名である。
ちなみに議員報酬は 56.5 万円／月、議長報酬は 67.5 万円／月である。

3.所感／成果(★で示す)

加古川市のごみ処理は、2021 年(令和 4 年)から、隣接する 2 市 2 町(加古川市、高砂市、稻美町、播磨町)が協力して設立した「愛称:エコクリーンピアはりま」(兵庫県高砂市の海辺にある施設、正式名称は「東播臨海広域クリーンセンター」)において、上記 4 自治体の可燃ごみ、不燃ごみ・粗大ごみなどを処理している。(桑名員弁広域連合と同じような方法)

加古川市環境政策課から学んだこと、見習うべき点を以下に報告します。

① 地域と市民の協力でゴミ減量 20%目標を達成

加古川市では、「加古川市民 27 万人の力で 20%ごみ減量を！」をスローガンに様々な取り組みを実施し、2021 年度(令和 3 年度)末には 2013 年度(平成 25 年度)比で 25.4% の大幅なごみ減量を達成している。

ゴミほど無駄なものはなく、ごみ処理に必要な設備・運転経費削減、そして、地球環境を守るために CO₂ 削減にも貢献するごみの減量化に継続して取り組んでいる。

★どの地域はどんなゴミ質のものを、どれくらい出しているか、60 種類のごみ種に分類調査している。

焼却処理場に搬入されたパッカー車のごみをシートの上にあけて、人手でごみ種を仕分けして重量測定している。1 日当たり 2 地区、パッカー車数台分を抜き取りで調査している。(委託)

一般質問や決算審査の席で再三 本町担当課に対し「本気でごみ量を削減する気なら、ごみを分析せよ」と要望していることを、加古川市ではちゃんと実施している。本町も見習うべし！

どんなゴミがどれだけ出しているのか、一般住民にも調査分析データを公開し、どうやつたらごみ量を削減できるか、一緒に考えて取り組まなければ、ごみ減量化は絶対に無理である。

② 剪定枝を資源化(堆肥化)による可燃ごみの減量化

家庭系および事業系から出る剪定枝を分別収集または自己搬入する。収集された剪定枝は資源化できないものを仕分けてから、大阪堺市にある資源化工場まで輸送し再生している。

資源化している量は約 6000t／年程度、また、資源化に要している費用は 22000 円／t を支払っている。

一方、剪定枝の処理手数料は、家庭系の場合は 80 円／10kg、事業系の場合は 130 円／10kg を徴収している。(おおまかに試算すると 1 億円近くの処理予算を使っている)

★加古川市では、剪定枝をチップ化する粉碎機の貸し出しを別に実施している。(3 台所有)

本町は竹藪が未管理でどんどん拡大している。ボランティア仲間で竹の伐採をやりたいと思っているが、伐採後の処理方法に苦慮し実現できていない。

粉碎機の貸し出しをやってもらえば、地域で竹を伐採して処理しようと考えてくれる住民は居ると思うので、ぜひ本町でも検討してほしい。

③ 粗大ごみの戸別収集は高齢者世帯に好評

★事前申し込みのあった市民宅に直営の担当者が来向き、収集運搬と処理を行っている。粗大ごみを持ち出せない高齢者世帯や指定日に粗大ごみステーションに持っていない家庭などから、利便性が高まったと好評のこと。

高齢化している本町でも、検討してほしい事業内容だと考えます。

④ 小学 4 年生を対象に夏休みごみ減量チャレンジ

環境学習を始める小学 4 年生を対象に、夏休みの間に家庭のごみ出しを手伝いながら、身近なごみの減量や資源の分別について考えてもらうことを目的とし、学校単位で募集してもらい、冊子と記入シートおよび雑がみの分別を掲載した「雑がみ保管袋」を応募のあった学校に配布している。

★小さい時からごみのことを考える、とても理にかなった啓発活動だと感心しました。ぜひ本町でも取り入れてほしいと思います。

※補足

会社に勤めていた時代、EMS(環境マネジメントシステム)担当を兼務し、「ごみ量の削減」や「エネルギー使用量の削減」などに取り組んだ経験があり、自分たちで決めたルールや目標を達成するため、人一倍真剣に関わった経験がある。だから、担当職員の苦労はよく理解する。

しかし、言い訳や弁解はせずに 絶対に達成してやるぞの気構えで、やり切るしかない！

2 日間の視察研修は、気づきと新たな発想をたくさん感じることができた有意義な研修でした。

以上